

働く男のライフスタイル情報紙

BizLifeStyle [ビズスタ東京]

2018 06

特別版

『BizLifeStyle』は東京、神奈川、名古屋、関西、京都・滋賀、仙台、福岡、広島にて62万部発行
下記URLまでアクセスを。

www.biz-s.jp

広告掲載に関するお問い合わせ・申し込みは
TEL.03-6854-7001 FAX.03-6854-7005

企画・制作/株式会社アイリススポーツ案内広告社
〒110-0015 東京都台東区東上野4-8-1 TIXTOWER UENO 14F
©2018 DAILY ADVERTISING AGENCY CO.,LTD

箱根吟遊

大人のふたりで過ごしたい
「最も贅沢な箱根」とは

特集 何と200回も足を運んだリピーターも！ グランドオープンから15周年を迎えた「あの人気宿」の総責任者に直撃インタビュー！

My Favorite Life Style



ひとり旅でも、グループ旅行でもない。大切な相手とふたりきりで過ごしたくなる「最も贅沢な箱根」を目指して。

温泉地を対象とした人気ランキングでは、全国の並み居る「強豪」を押し上げて上位に躍る神奈川県箱根温泉。関東の湯を代表する伝統の温泉地ゆえに「変化」というイメージは薄いが、高度成長期から現在まで、実は少しずつ形を変えている。中には従来とはまったく異なる新しい視点を宿づくりに持ち込み、大成功を収めているケースも。そのひとつが今回紹介する「箱根吟遊」。

前身の旅館を全面リノベーションした同宿は、今年で15周年を迎える。悠久の箱根の中では新しい部類に入るが、まるで老舗の名旅館のように「予約が取りにくい」と言われるほどの支持を得ているのか。今回は、全面刷新をプロデュースし、現在は総責任者を務める本田明宏氏に直接お話を聞くことができた。温泉ファンのみならず、ビジネスパーソンとしての立場から触れても参考になりそうな内容なので、ごそんごそん紹介しよう。

—— 人気が高い「箱根吟遊」ですが、箱根の旅館としては少し変わった位置づけなのではないですか。

—— オープンしたのは2003年の秋ですが、当時の箱根はグループ旅行を想定した旅館が大半だったんです。そこで「ふたりで過ごすための旅館」を創りたいなと。

—— 夫婦やカップルですか？

はい。でも、女性が行きたい宿と言うより「男性がエーストしたくなる宿」というイメージです。私は以前、添乗員の仕事に就いていたのですが、インドネシアのバリ島で、蠟燭の灯りがボツボツとしかないホテルに「艶つぼさ」を感じました。昔は日本にも風情ある風景がたくさんあって、中でも箱根は新婚旅行先として人気でした。そんな観点で、夫婦

—— 本物の自然の美しさをスタイリッシュに堪能できるという印象です。なぜか「だから、おふたりのための宿」というキーワードが効いてくるように感じます。

—— もちろん、3名以上の旅も楽しめたいのですが、そういうグループでの御旅行では、意外にどの旅館に泊まったという印象はあまり残らない笑。

—— 確かに「笑」。1人のひとり旅なら、もっとおもしろいかな。

—— なのに、「ふたりきりの旅」では、宿の印象が「気に増しますよね。ですから、私どもの宿をお選び頂く時には、おふたりが「それ」で過ごしたくなる空間を創り出したいと考えています。

—— 添乗員時代には、旅の日程を律義に1日かけて行動する日本人旅行者の方をよく見かけました。でも、外国人たちは、宿泊施設内のプールに浮いて、読書をしていたり、気ままにゆったり何もしないで過ごす方も多く見掛けました。最初は「何が楽しいのかな」と思いましたが、こうしたリゾートの過ごし方は、最近では日本でも理解されてきていると思います。宿は観光の拠点ですが、同時に何かせずに「ポイント」でも楽しめる空間でもありたい。

—— リゾートも多岐にわたります。日本に比べて、その日のお客様の動向を占める回数も異なります。中には200回近くお越し頂いているお客様もいらっしゃいます。

—— 1泊2泊、別荘代わりに御利用頂くリピーターの方もいらっしゃいます。でも、そうした方々は、こ本

や恋人で特別な時間を過ごしたくなるような空間を創りたかったのです。

—— 最もこだわった部分は？

—— まずは眺めの見せ方です。私はこの場所で見ましたので、この風景に慣れ親しんでしまった季節や天気や景色は変わりませんが、それだけではなくて、ほんの10メートルほど横に移動しただけでも印象がまったく違ってくるのが、吟遊からの景色なんです。初めてお越しになった方も自然に実感頂けるように各空間を設計しました。

—— また、景色や空間を活かすには照明も重要なので、日本人と欧米人の感覚の違いも理解して「明るさと暗さ」を創りました。場所ごとにひとひと、私自身の目で明るさを吟味しました。

—— お部屋の特筆点は？

眺めと共に居心地のよい広さにとどまらず、4〜5人が入れるお部屋をおふたりで使うと、逆に居心地が悪く感じたりしますよね。そこで、同じ100㎡でも、細かく区切るように考えました。テラスやダイニング、和室に洗面など、取って区切り「する」ことで自然に落ち着ける広さ感を実感しました。

—— 全室に露天風呂付きですが、1泊2日のこだわりは？

—— 露天風呂にこだわりはありませんが、この景色を五感で堪能頂くには、ガラスも壁も無い露天風呂が必要となる。テラススペースを設けるなど、箱根の四季感を強調しています。お客様の中には、たとえば毎年、春や秋の訪れを感じるたびに、吟遊に行かなくちゃと思ってしまうと仰る方もいらっしゃいます(笑)。

—— 確かに、突出した特徴というの創りておられないですか。

—— 結果、ご宿泊頂いて何かおっしゃるといいます。首をかしげる位を創っています。何かいいかわからなければ、来てしまえばいい。

—— 1人の心「も、うまく表現できな部分です。

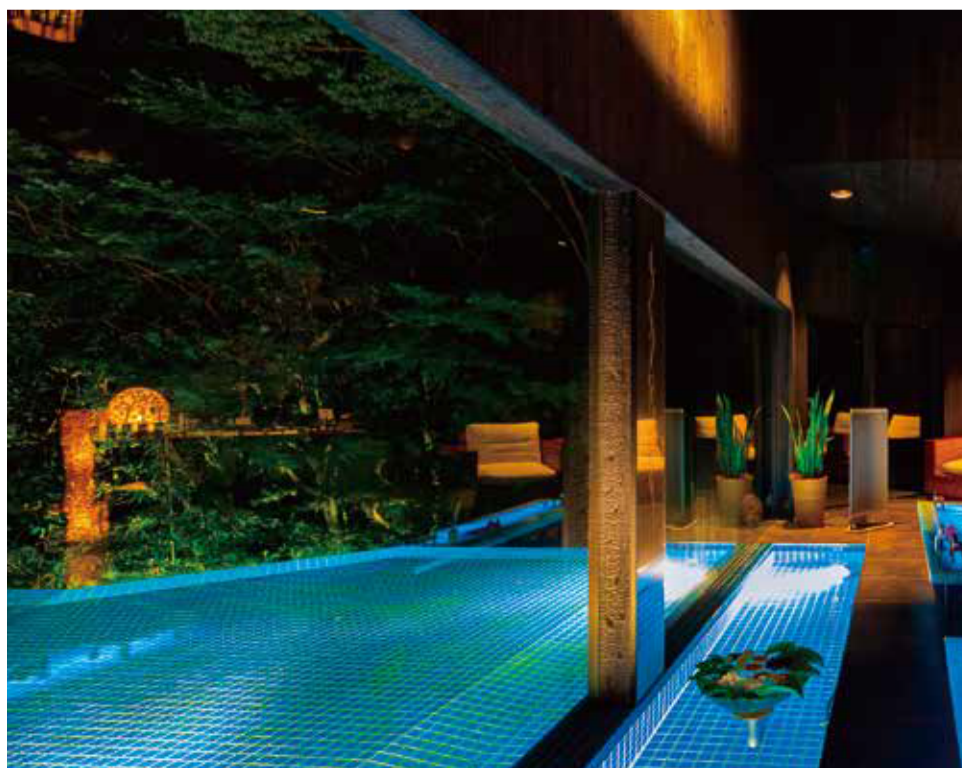
—— そうですね。よく驚かれるのですが、「箱根吟遊」ではサービスマニュアルをほとんど作りず、安全面など以外ではスタッフの決り事を極力少なくしています。お客様の「コミュニケーション」の中で最適な対応を見つけて「おもてなし」だと思えます。その分、お客様からは、対応したスタッフを指してお褒め頂くことが多いです。

—— 欧米人のリピーターも増えているそうですね。

—— おかげさまで。実は15年前の設計段階で「浴衣姿の日本人」というイメージを描いていたので驚いています。



箱根吟遊
専務取締役 太田 明宏
mail:
hakoneginyu@fine.ocn.ne.jp



My Favorite Life Style



「大人のふたり」として過ごしたい休日。

中面で紹介したように、「箱根吟遊」はひとつのポイントだけでは語れない温泉宿という評価が多い。強いて言えば、全室に専用の露天風呂が設けられていることは選ぶ際の参考になるが、実際に出かけてみると、むしろほかの多数の魅力に目を奪われてしまうのだ。

同宿は、小田急線「箱根湯本」駅で箱根登山鉄道に乗り継ぎ、「宮ノ下」駅から徒歩で3分ほどの場所にある。現在の建物は、今回お話を聞いた総責任者太田明宏氏が全面的にプロデュースしたもので、彼の祖母の代に創業した「武蔵野観光旅館」がベースとなっている。当時から多数のファンを抱える繁盛宿だったのだが、リニューアル以降は人気ぶりがさらに顕著に。旅行系メディアで頻繁に取り上げられ、中には「最も予約が取りにくい旅館」と紹介されていることもあるほどの注目を集めている。

ジャパネスクとオリエンタルがたゆたうように融合する場所

太田氏の話の中で、バリ島でのエピソードが出たが、「箱根吟遊」の館内を実際に歩いてみると、そこかしこに南国のラグジュアリーリゾートを想起させるシーンが見られる。とってつけたようなアジアテイストではなく、主体となる「箱根のジャパネスク」に流れ込むような異世界感が心地よい。

たとえば、落ち着きある畳敷きに木の骨組みが印象的な高い天井を組み合わせた空間づくりは、これまでの和風旅館の居心地のよさから逸脱せず、それでいて「初めて体験した」と感じずにはいられない独特の空気感をまとつ。また、24時間入浴可能な温泉大浴場は、水平線の向こうに箱根連山を望む絶景の湯

処だが、よく見ると面白いことに気付く。柵を取り払って水面がそのまま景色へと溶け込むインフィニティデザインは、実はバリ島の高級リゾートのプールなどで見られる手法だったりするのだ。

中面に写真を掲載したが、解放感たっぷりの見惚れるような空間の中には、こうしたさりげない工夫が山のように用意されている。館内に入って最初に驚くあのテラスを見た瞬間、いかにシーナリーが大切にされているかが身体で理解できるが、こうしたサブライスは随所に息づいている。それらを集積したのが「箱根吟遊」最大の特徴のひとつ、即ち「風景」なのだ。

「大人のふたり」の休日のために
まずは予約の確保から

ロビーの隣には、敷地内の庭園を長く見守ってきた松で造られた一枚の展望バーカウンターが、1階のガーデンラウンジは、まるで池に浮かぶ水上「テラス」のようで、夜間は幻想的にライトアップされるそうだ。そのほか、源泉かけ流し露天風呂付きの豪華＆本格スパなど、館内を歩き回るほどに「特別な女性を案内したくなる」雰囲気。

メゾネットスタイルを含め、客室は4タイプ全20室。すべての部屋が露天風呂に加えてオープンテラスを備えており、やはり眺めが素晴らしい。食事は、朝夕ともにダイニングの部屋食で、バーから飲み物の手配も可能なので、ナイトタイムのリキール選びもゆつたりと楽しむぞうだ。

設計思想から実際の空間まで、「大人のふたり」に最適化された箱根の名スポット。ハイシーズンの予約は大変かもしれないが、諦めずにトライを続けてみて欲しい。

御宿泊料金(一例)

客室タイプ	風	星		空	月
	(4F) 和室	(3F) 和室・洋室	(3/4F) メゾネット	(2F) 和室・洋室	(1F) 和室・洋室
2名様	¥38,000~ (¥40,000~)	¥31,000~ (¥35,000~)	¥34,000~ (¥37,000~)	¥29,000~ (¥33,000~)	¥41,000~ (¥44,000~)

- 左記料金はオフシーズンの1泊2食(サービス料込、税金別、入湯税別)、1名様分の料金です。
- オンシーズンに関しましては宿泊料金の変動がございます。詳しくはお電話にてお問い合わせください。
- ()カッコ内料金は休前日料金です。
- 年末年始は、休前日料金の13,000円UPとさせていただきます。
- お盆、GW、年末指定日は休前日料金の4,000円UPとさせていただきます。



箱根・宮ノ下温泉 箱根吟遊

神奈川県足柄下郡箱根町宮ノ下100-1
チェックイン14:00、チェックアウト11:00

アクセス

箱根登山鉄道「宮ノ下」駅より徒歩3分
※「小田原」駅または「箱根湯本」駅よりバス便あり(「元箱根港・箱根町行・桃源台行」に乗車、「宮ノ下」バス停下車、徒歩1分)

www.hakoneginyu.co.jp

